

国語

1



光村図書

監修

樺島忠夫

大阪府立大学名誉教授
京都大学名誉教授

渡辺 実

京都大学名誉教授

編集委員

安藤修平

山口大学教授

市川伸一

東京大学教授

井上一郎

神戸大学教授

甲斐利恵子

東京都立府立京田中学校教諭

Donald キーン

コロンビア大学名誉教授

小森陽一

東京大学教授

佐藤洋一

京都府立大学助教授

高田 宏

作家

田中稔雄

山口大学助教授

中村祥子

生命科学研究会

仁田義雄

大阪外国語大学教授

松丸春生

国語教育者

安居穂子

大正大学教員

光村図書出版株式会社編集部

宮地 裕

大阪大学名誉教授

飯田秀治

京都府立京田中学校教諭

市毛勝雄

早稲田大学教員

甲斐睦朗

国立国際研究センター

片岡徳雄

土佐大学短期大学学長

北川茂治

鹿児島経済大学教員

斎賀秀夫

大阪府立大学名誉教授

神宮輝夫

「百合女子」大学教員

滝井徳子

東京都立田舎区田山小学校教諭

中西 弘

大阪教育大学名誉教授

中本 環

国語教育者

藤原 宏

京都府立大学助教授

森山卓郎

京都府立大学助教授

安河内義巳

長崎大学教員

国語 1

38光村 国語705

平成 年月 日印刷
平成 年月 日発行

（平成十一年二月二十日文部科学省検定済）
定価 文部科学省検定済教科書として発行
（2000年定価は各教科書検定法施行期に示します。）

この教科書にもとづくフリーク・アップ・プログラムに
これに類するものの無断発行を禁じます。

法務省の許可により著作権を行使しています。

著者

宮地 裕（以下省略）

発行者

光村図書出版株式会社

代表者

常田 寛

製版印刷者

協和システム印刷株式会社

代表者

荒井 宏一

表紙写真

表紙写真 加藤 新一

表紙デザイン

株式会社加藤文明社

表紙写真

代表者 加藤 新一

発行所

光村図書出版株式会社

東京都加田文士大町二丁目九
電話（03）3343-1111（代）

表紙

表紙・本文デザイン

挿絵

うさぎのうさぎ

写真

IPS 岩谷光昭

挿絵

IPS 岩谷光昭

挿絵

IPS 岩谷光昭

・これまでの学習の中で、言葉について、どんなおもしろさ、不思議さを見つけただろうか。次の文章にも、言葉の不思議さにつながる幾つもの入り口がある。言葉の世界を探ってみよう。

雪やこんこ、あられやこんこ

佐々木瑞枝

寒いと思ったら、やはり雪だ。

「先生、わたし、本物の雪を見たのは初めてです。」

と、タイのピンユーさんがうれしそうに言う。声が弾んでいる。

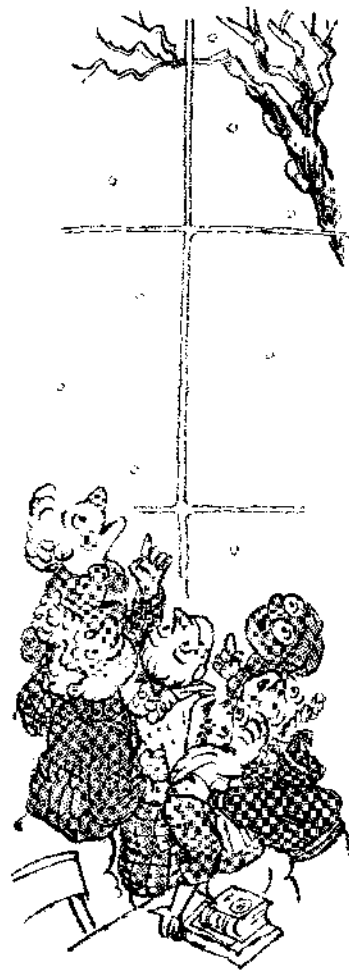
「わたしたちも初めて。」

と、マレーシアやフィリピンの留学生たち。

雪に感動する留学生たちの気持ちは、日本人学生にも次々に伝わり、感動の連鎖を巻き起こす。

留学生センターでの「異文化コミュニケーション論」の授業も、今日が最終回。テスト後は故国に帰る留学生も多い。空からとめどなく降る雪は、留学生たちにお別れを言いに来てくれたのかもしれない。

みんなで外に出ると、昨日まで土と芝生のまだら模様だった庭が、きれいに雪化粧している。



留学生センターでの……授業、留学生と日本人学生が、お互いの文化や風習、言語などの違いを発見する授業。

①連鎖
②故国
③雪化粧
④連鎖
⑤雪化粧

「雪やこんこ、あられやこんこ、降っても降ってもまだ降りやまぬ……。」「日本人学生のリーダー格の末砂^{みさ}さんが歌い始めると、ほかの日本人学生たちもつられていっしょに歌う。

「先生、『あられ』ってなんですか。」

と、ピンユーさん。

「『あられ』は雪に似ているけど、少し違うんです。小さな氷の塊が降ってくるのがあって、それを『あられ』とよぶの。雨と雪が混じったものは『みぞれ』といいます。雪だっているんな種類がありますよ。ぼたん雪とか粉雪とか。今降っているのは粉雪。ね、この雪、粉みたいでしょ。さらさらしてて。」

そう言っ、ピンユーさんのコートの雪を手で払ってあげると、フランスのカトリーヌさんが、

「こういうの、さらさらっていうんですか。わたしの国にはそういう表現がないから、感覚がわかりません。」

と言う。

確かに、外国人にとって日本語の擬声語や擬態語は難しい。今度、クラスでじっくり指導しなければ。「さらさら」は、物に湿り気がないときに使ったり、川が流れる様子を表すときに使ったりする。そこにどんな共通点があるかを考えるのもおもしろい。それに、「さらさらの雪」といえば軽く乾いた感じがするが、「ざらざらした雪」というと、水分が多くて、ちょっと氷の混じったような雪を想像させる。こういったニュアンスを教えるのも、わたしの役割だ。

雪の日の授業は、留学生にとっても日本人学生にとっても、自然が教えてくれる異文化体験だった。

「先生、試験が終わったら、留学生たちと雪を見に行きませんか。」と、末砂さん。

「それなら、スキーがしたいです。」と、ピンユーさん。

擬声語

音や声をまねて表した言葉。ワンワン、ゴーンなど。

擬態語

物事の様子、身ぶりなどをそれらしく表した言葉。さらさら、にっこりなど。

ニュアンス

言葉の意味や音の調子などのほかとの微妙な違い。

2 擬声語

マイクロバスをチャーターして、留学生と日本人学生の「雪に出会う旅」は、こうして始まった。

*

横浜を出発したのが夕方の五時。バスは快調に高速道路を走り、山形県の蔵王温泉に着いたのは真夜中だった。夜目にも白い一面の雪景色。降るような星空。寒気がほおを突き刺す。

わたしたちの今夜の宿は、大きなホテルの隣の小さな民宿だ。

「宿の主でございます。みなさんをお待ちしておりました。どうぞ。」

時計はもう十二時を回ろうとしている。親切な宿の方々はわたしたちのためにこたつを暖め、夜食まで用意しておいてくださった。

オーストラリアからの留学生トニーが、

「このホテルの人は親切ですね。オーストラリアだったら、キーをくれるだけです。」

と感心する。

チャーター

飛行機、バス、船などの乗り物を借り切ること。

快調

感心

突き刺す

それを聞いて、宿の主殿は、

「お客さん、ここはホテルなどではございません。ちっぽけな宿屋でございます。」

と、控えめにおっしゃる。

「えっ、宿屋。旅館ではないのですか。宿屋と旅館はどう違いますか。」と、カトリヌさん。

「旅館というのは、もうちょっと構えが立派というか……。ホテルは、隣に建っているような、ベッドに寝る様式のもので……。」

と、宿の主殿の説明も心もとない。

こたつで暖まり、おいしいあべかわ餅をほお張りながら、留学生たちはわたしの説明に耳を傾ける。

「宿は和語で、まだ中国語が日本に入ってくる前からあった表現。それに対して旅館は漢語で、中国から入ってきた表現。ホテルはいうまでもなく外来語、つまり、外国語が日本語化したものといえますね。中国語

あべかわ餅

焼いたもちを湯にひたし、砂糖ときな粉をぶしたものを。

様式

耳を傾ける

控えめ

も本来なら外国語なの。でも今では、どっしりと日本語の中に根を下ろし、和語と漢語の区別はつきにくい。」

日本語とは不思議なもので、外から入ってきた言葉ほど格が上になるようだ。この場合も、宿屋よりは旅館のほうが建物も大きく、施設も整っている印象を与える。ホテルとなるとさらに洋風のイメージが加わる。

日本人学生の武君^{むけ}は、さっきからしきりに「和語、漢語、外来語」とつぶやきながら例を考えている。

そうだ。今度の授業で、和語、漢語、外来語の違いをみんなで考えてみよう。日本語は、和語、漢語、外来語を駆使^きすることによって表現を豊かにしてきた。日本語の微妙な言葉の使い分けを知ること、留学生たちの言葉に対する感覚も磨^{みが}かれるにちがいない。帰ったら資料を作ることしよう。これはわたしの宿題。

*

翌朝、十畳の部屋で体を寄せ合って寝た八人が、慣れないふとんの上

磨^{みが}く

リ駆使

で目を覚ました。顔に当たる空気が冷たい。息を「ほおっ。」と出すと、まるで白い霧のように空気の中に広がる。

「おはよう。おお、寒いですねえ。」

と、ピンユーさん。タイの留学生にとって、こんな寒さも生まれて初めてなのかもしれない。

霧^{きり}

朝食をとりを下へ降りていくと、宿の主殿が、

「ばばちゃ、昨日の晚いらっしゃったお客さん。」

と、おばあさんにわたしたちを紹介する。

「おはようございます。」

「まあ、めいごい学生さんたちだねえ。」

と、おばあさん。

「『めいごい』って、どういう意味かな。」

と、武君がつぶやくと、

「かわいいという意味ですよ。」



と、宿の主殿が説明してくださる。

朝食は、留学生も日本人学生も、そして宿の人も大きなこたつに入っている。まるで大家族のようだ。温かいご飯にみそ汁、厚い卵焼き、そして、話題は専ら方言のことだ。

「かわいい、わたしのところでは『めんこい』。」

と、米砂さん。

「米砂さんは、どちらの出身ですか。」

と、トニーが尋ねる。

「栃木^{とちぎ}です。『めこい』と似てるでしょ。でも、かわいいことをどうして『めこい』とか『めんこい』とか言うんでしょうね。」

留学生も、方言に興味をもったようだ。

「先生、今度授業で方言のことを教えてください。」

と、トニーが言う。

「そうね。じゃあ、今度方言のことをみんな調べて発表することにし

みそ汁^{みそじゆ}

ましよう。インターネットを使えば、各地の方言が収集できますよ。」
と、学生たちに投げかける。

「かわいい」という言葉も、地方によってさまざまな言い方がある。
大きな日本地図に、それぞれの地域の言葉を書き入れたら、「方言地図」
ができるかもしれない。

*

さあ、ゲレンデに出よう。昨夜の雪もやんで、白い斜面がわたしたち
を呼んでいるようだ。

「先生、雪が凍って、するするします。」

と、トニー。

「トニー、するするではなく、つるつる……。」

いや、こんなところで日本語の勉強はやめておこう。わたしも昔とっ
たきねづか、風を切ってゲレンデを滑り降りたい。雪山が呼んでいるの
だから……。

10

昔とつたき
ねづか

斜面^{せんめん}

凍る^{こえる}

滑る^{なぐる}

5

方言地図

同じ意味を表す言葉が、場所によってどのように入っているか、地図上に書き記したもの。
ゲレンデ
スキー場の斜面。



《筆者》 佐々木瑞枝（四）（昭和七）——京都府出身。日本語教育学者。著書に「日本語教育の教室から」「日本語ってどんな言葉？」、「外国語としての日本語」「女の日本語・男の日本語」などがある。

《出典》 本書のための書きおろし。

《新出漢字》

207 鎖くさり

209 粧シヨウ

205 塊かたまり

208 払はらう

209 擬ギ

210 刺さす

211 控ひかえる

212 磨みがく

213 霧きり

214 汁ジュウ

215 斜シヤ

216 凍トウ

216 滑カズ

《新出音訓》

207 化粧ケシヨウ

214 専らもっぱら



小川桐昭・絵

筆者と留学生たち